

## Newspaper vol.03



## 茨城県高等学校総合文化祭

## 高等学校音楽会に参加しました！

2024年11月22日にひたちなか市文化会館で行われた、茨城県高等学校総合文化祭高等学校音楽会に参加しました。ここ数年、恒例となりつつある、那珂高校さん・小瀬高校さん・水戸葵陵高校さんとの四校合同バンドでの参加となりました。

今回演奏したスティーヴン・ライニキー作曲の「セドナ」ですが、校内での練習では、学指揮から「セドナの景色をイメージして演奏しよう」と合奏指導がありました。しかし、狭いプレハブではなかなかその雄大な景観を表現することが難しく…苦戦していた様子。そのような不安も少しある中での合同練習。2回という限られた時間の中で、少しでも息の合った演奏を目指し、テンポ感や曲想の捉え方を共有していきました。

迎えた本番では、練習に忠実に、そして何より普段は味わうことのできない60人という大編成を楽しもうと、それぞれが演奏に向き合うことができました。他校の演奏を聴くことでさらに刺激を受けた一日になりました。

## 音のある図書館

## 「近隣小中高生によるアンサンブルのしらべ」

2024年12月1日に茨城県立図書館で行われた近隣小中高生によるアンサンブルのしらべにフルート三重奏とクラリネット三重奏の2チームが出演しました。自主学习でお世話になっている二高生も多い、音は立てず静かに…が基本の図書館で演奏会をするというワクワク（ソワソワ？）するイベントです。集合するや否や、恒例となりつつあるラジオ体操。穏やかな晴天の中、自転車の練習をする子どもたちに少しだけ不審な目を向けられつつ（!?）ウォーミングアップ。しっかりと体を温めてから、音出しに臨みました。

両チームとも11月初旬に行われたアンサンブルコンテスト地区大会から、自分たちが表現したい音楽をさらに追求すべく練習に励んでいます。この日も会場いっぱいのお客様一人一人に届くよう精一杯演奏しました。少人数のアンサンブルでは、個々の音色やより繊細な表現が求められますが、他校の演奏を間近で鑑賞することで、その姿勢や息遣いから自分たちの音楽表現に生かすヒントを得られました。



フルート三重奏



クラリネット三重奏

## 編集後記

秋はこういった音楽会も多く、演奏技術だけでなく鑑賞する耳と心を養えるのがいいと感じます。

来年の活動に向けて、プロの演奏で聴きたいな…と思っている曲があります。その曲がプログラムに入った演奏会がタイミングよく見つければいいのですが、なかなか上手くはいかず、現状見つかったものだと音楽の都ウィーン。

これはラーケーションでウィーンに行く日が…？来ないか。(笑)

